

# インフルエンザの流行に

## 気を付けましょう



令和7年1月10日発行

中央検査技術科

### インフルエンザとは

インフルエンザはインフルエンザウイルスにより引き起こされる急性ウイルス性疾患です。インフルエンザウイルスにはA、B、Cの型があり、流行的な広がりを見せるのはA型とB型で例年、11月頃から徐々に患者が増え始め、1月頃に流行がピークに達し、4月過ぎに収束する傾向があります。

### インフルエンザの症状は？

感染してから1～3日間の潜伏期間の後に急な発熱や悪寒戦慄、のどの痛み、頭痛、関節痛などが現れ、38度以上の高熱が3、4日持続した後、解熱していくという経過を辿ることが一般的です。個人差はありますが、38度以上の熱にのどの症状がある場合はインフルエンザの可能性が高くなります。

### インフルエンザの検査タイミング

インフルエンザの検査法としてキットを利用した抗原検査があります。

この検査法は「発症から時間が経過したほうが感度が高い」という特性があります。検査のタイミングは偽陰性（インフルエンザに感染しても陰性と出てしまうこと）を減らすために発症から24～48時間後が推奨されています。

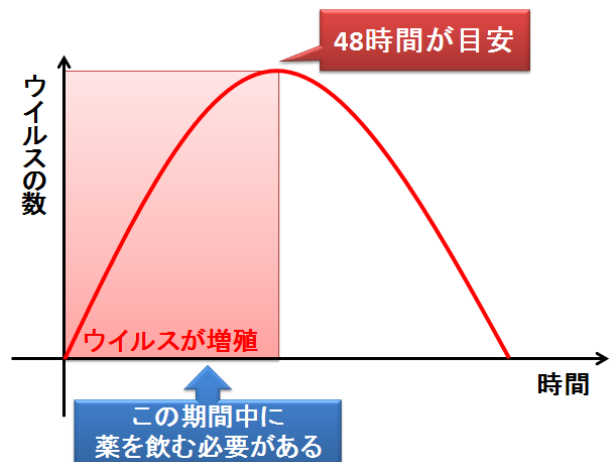
対象		全インフル患者 関節痛、寒気、頭痛など症状のみを含む
時間経過別感度	< 12h	38.9%
	12-24h	40.5%
	24-48h	65.2%
	48h <	69.6%
	全体	54.3%

### 抗ウイルス薬の服用時の適正期間

一方で抗ウイルス薬は発症から投与が速いほうが有効です。『タミフル（一般名：オセルタミビル）』など、現在使われているインフルエンザの薬は全て「ウイルスを退治する」薬ではなく、「ウイルスの増殖を抑える」薬です。

そのため、ウイルスがまだ十分に増えていない状態、まだ増殖している段階で使う必要があります。この「増殖が終わる」までの目安が、「発症から48時間以内」です。

48時間を超えてしまうと治療効果がほぼなくなるとされています。



### 結論

インフルエンザに発症して約24時間後が検査の感度も高く、抗ウイルス薬等の治療にも適しています。ただし、幼児、高齢者、妊娠中の方、喘息のある人、慢性呼吸器疾患（COPD）、慢性心疾患のある人、糖尿病など代謝性疾患のある人は重症化しやすいので該当する方は早めにお近くの医療機関に掛かりましょう。